

# 桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。  
どなたでもご参加いただけます。  
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第29回

2015年  
1月24日(土)  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 703号室  
★いつもの教室のひとつ下の7階です!

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料

☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## 日本で印刷されたロシアの紙幣

報告者: 鈴木 明



日本で印刷されたロシア紙幣(20ルーブル)

石井柏亭が雑誌『中央美術』大正9年4月号に寄稿した『若き露人の群』の中に、ダビッド・ブルリュークの知人ニェダシコフスキーが、凸版印刷所でデザインしたロシア紙幣がでてくる。このニェダシコフスキーの紙幣は、実際に発行されたのだろうか……

ある偶然の発見を手掛かりにこの幻の紙幣を追ったロシア貨幣コレクター斎田章氏からの報告をもとにして、この謎を追う。

●鈴木 明(すずき あきら)

1939年生まれ。「日ソ学院」でロシア語を学ぶ。

ロシア語の機械マニュアル作成に従事。

ブルリュークの調査を2001年出版の「大島」から始める。

## サーカスの可能性を追う——サーカス・フォーラムに参加して

報告者: 大島 幹雄

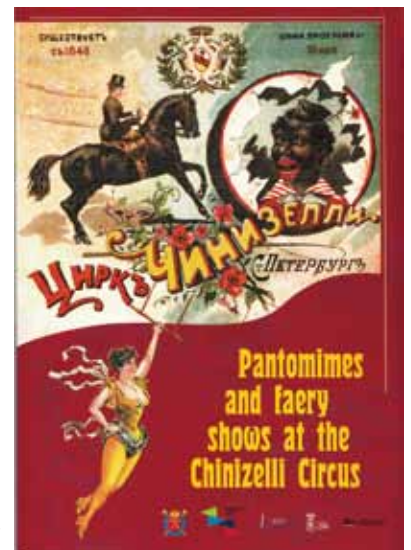
2014年12月7日から3日間ロシア・サンクトペテルブルグで開催されたサーカス・フォーラムに参加・報告した。フランスのコンテポラリー・サーカス Defracto の公演、サーカスや野外劇の演出をめぐる討議には、昨年メイエルホリドセンターで公演されたロシア初のコンテンポラリーサーカス「360度」の演出家やソチオリンピックの開閉幕式を演出したダニエル・フィンジ・パスカも報告、サーカスや野外劇の歴史を振り返りながら、サーカスの未来の可能性について熱い論議がかわされた。

その一部を映像を含めながら紹介する。

●大島 幹雄(おおしま みきお)

サーカスプロデューサー。著書に『サーカスと革命』(水声社)、

『明治のサーカス芸人はなぜロシアに消えたのか』(祥伝社)など。



サーカス・フォーラムに合わせて開催されたチニゼリ・サーカス「パントマイムと夢幻劇展」ポスター